

関西大学 初等部
2019 年度学校評価報告書



2020 年 3 月

目 次

1	本校の概要	1
2	点検・評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見.....	1
3	今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	5
4	校長の意見書	18
5	アンケート結果	18

1 本校の概要

(1) 沿革

2010年(平成22年)4月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数366名、教員数35名(専任22名、非常勤11名、特任外国語講師2名)である。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 ー学びを深め 志高ー」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

2 点検・評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

点検・評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>アンケート結果の分析 教員・保護者アンケートについて</p> <p>全体を通して、保護者の評価は今回も肯定的評価が90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい結果であると考えている。また、教員についても、今回のアンケート結果は昨年度と比較して全体的に肯定的評価が伸びている。各教員が昨年度の結果をもとに自身や学校全体の教育活動を改善してきた成果として評価したい。以下、いくつかの項目についての分析を述べる。</p> <p>No. 1は本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2、3は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねている。保護者についてはいずれも肯定的評価が97~98%と非常に高い評価となっている。どの項目についても昨年度と比べて1ポイント下がっているが、例年とほぼ同様の結果であると捉えている。</p> <p>教員については、No. 1の肯定的評価が1ポ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、児童・保護者・教員とも肯定的な評価が大半を占めており、特に問題なく学校運営が進んでいることが確認できた。 ・初等部卒業生には、中等部・高等部に進学してもリーダーシップを発揮して、積極的に発言して欲しい。 ・これまでも取り組まれているとおり、初等部の間に、習うのではなく自ら学ぶ癖を身に付けるような教育を進めて欲しい。その結果が大学での専門的な学びに繋がっていく。

イント増、No. 2が9ポイント減、No. 3が5ポイント増となっている。初等部の教員アンケート対象が23名のため、1名は全体の4～5%、2名は全体の8～9%を占めることになる。つまり、No. 2（公立や他私学に負けない教育）が9ポイント減は否定的に捉えている教員が昨年度と比べ2名増えたことになる。「公立や他私学に負けない教育」は本校の根幹に関わる部分である。学校としては、この結果を真摯に受け止め、授業改善や教員の意識改革、研究の充実など積極的な働きかけを行う必要がある。

No. 4からNo. 15（保護者はNo. 9、10は無し）までは、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、ほとんどの項目で肯定的評価が90%を上回っている。初等部の授業、取組に対して満足してもらっていると考えているが、その中でNo. 4（基本的な学習ルール）は3ポイント肯定的評価が下がっているため、次年度の教育活動にいかしたい。No. 16（教育内容の発信）については保護者の肯定的評価が4ポイント増加したのは、学年ブログ・学級ブログ・登下校メールシステムなどを用いた積極的な情報発信の成果だと捉えている。

教員については、No. 5（確かな学力をつけるための工夫された授業）が9ポイント減、No. 6（思考力重視の指導）が8ポイント減と、どちらも否定的な捉えをしている教員が2名増えている。この結果についても、No. 2（公立や他私学に負けない教育）と同様に本校教育の中核となる部分である。次年度の教育活動に向け改善を進めていきたい。

No. 9（中等部接続に向けたカリキュラム作成）が20ポイント増加している点については、新学習指導要領に対応するため各教科でカリキュラム検討を進めてきた成果だと捉えている。

- ・初等部1期生が本年4月に初めて関西大学に入学すると聞いている。今後、初等部・中等部・高等部を卒業した学生に初等部に戻ってきてもらって、初等部での思考力の学習が大学の授業でどのように活かされているかということをお話してもらいたいなど、児童や先生方に良い刺激となる取組も考えてはどうか。

- ・全国学力・学習状況調査の結果報告で、国語のみ国立小学校の平均点を下回ったとのことであるが、ほとんど差が無い状態である。十分高いレベルだと思われるので、問題は無いと捉えている。本をしっかりと読んでいけば、自然と学力も身につけてくることもあるので、テスト対策の勉強ではなく、将来に繋がる学習に力を入れていただきたい。

- ・図書館などの恵まれた施設・設備を活用して、児童は日常的に多くの本を読んでいるとの報告があった。大変良いことである。他校に比べて手厚い指導ができる体制が整えられているので、その環境を更に活用して、担任だけでなく学校全体で読書指導、図書館教育を推進して欲しい。

- ・初等部と中高等部との連携に関しては、まず教員同士がface to faceで交流し、様々なプロジェクトを通じて、初等部の良い取組を中高等部に繋げて行って欲しい。

- ・5年生の参観授業に高等部3年生がゲスト参加し、プレゼンテーションを行っていた。初等部で学んだスキルを更に向上させており、非常に面白い取組であった。今後も初等部・

No. 17～21 は生徒指導及び特別活動に関する項目である（保護者は No. 21 無し）。教員については、No. 17（基本的な生活習慣などの積極的な指導）、No. 19（登下校のルールなどの適切な指導）、No. 21（クラブや委員会活動における自治意識や友だち作り）の項目についてポイントが落ちているので、次年度にいかしたい。保護者評価は昨年同様に肯定的評価が 90%を超えており、生徒指導・特別活動の指導に一定の理解を示していただいていると捉えている。

No. 22～27 の道徳教育、人権教育、健康教育に関する項目については、保護者評価は若干の増減はあるが、昨年までと同様に各取組について理解を得ていただいていると捉えている。教員評価については、No. 22（基本的な道徳的価値や実践力等の育成）、No. 23（いのちをテーマとした授業）、No. 26（運動に対する意欲・関心の向上と積極的な体力作り）、No. 27（健康や食に対する意欲・関心を高める取組）において、ポイント減となっているので来年度にいかしたい。

No. 28 から No. 32（保護者は No. 28、30 無し）は安全管理に関する項目である。保護者については、いずれも肯定的評価が 98～99%と非常に高い評価となっている。本年度も日常的な安全管理に加え、川崎市通り魔事件や吹田市での拳銃強奪事件等の学校全体としての取組の成果が保護者の信頼につながったのではないかと考えている。反面、教員評価は No. 28（登下校の安全管理）、No. 29（各児童の登下校状況のチェック）、No. 31（警報発令時の登下校指示）、No. 32（計画的な避難訓練の実施）でポイント減となっている点は、課題として来年度にいかしたい。

No. 33、34、35（保護者は No. 34 無し）は教員研修に関する項目である。保護者評価は昨年度とほぼ同様の結果であるが、教員については

中等部・高等部の児童・生徒間の交流、初等部と中高等部の教員間の交流・連携を進めてほしい。

・今回の新型コロナウイルス対応に関して世間で起こっている意味を子どもたちに考えさせてほしい。「感染症とはどのようなものか、なぜトイレットペーパーの買い占めが起きたのか」など生きた教材として、実社会の問題を考えさせることはとても大切である。社会安全学部の公衆衛生学専門の教員に児童向けに講演をしてもらうなどの方法も考えられるのではないかと。

No. 33 (指導力向上の研修)、No. 35 (研究発表会に向けた取組) の評価が下がっている。この点も No. 2、5、6 と同様に本校教育で大切にしていけるべきことである。次年度に向けた課題として、研究部会を中心として検討を進め全体での研修を活性化させたい。

No. 36 は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。一昨年度、以前の低い評価を大きく改善することができたが、今回は教員の評価も含め少しポイントを落とす結果となった。次年度も5・6年生の保護者対象の内部進学説明会、全校保護者を対象としたお話し会の取組にさらに工夫を加え、安心して中等部・高等部へと進学できるような状況を作り出していきたい。

No. 37 (保護者は無し) は入試・広報活動についての項目である。昨年度から13ポイント減となっているので、改善していきたい。

No. 38 (保護者は無し) は関西大学との連携に関する項目である。昨年度と同様、半数以上の教員が課題有りと感じている。今後、さらに可能性を模索していきたい。

No. 39、40 は教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。保護者の評価が1～3ポイント上がっているので、次年度以降も学校と家庭との密接な連携が進むようにしていきたい。

児童アンケートについて

どの項目についても肯定的評価が90%を超えており、概ね、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを肯定的に評価していることがわかる。

No. 1、2は、初等部での在籍及び学校生活についての評価である。それぞれ肯定的評価が100%、97%となっており、初等部生の誇りを持って充実した学校生活を送ることができたと思われる。学習に関する項目では、No. 3 (勉強意欲)、No. 4 (思考力)、No. 5 (授業評価) は95%を超える肯定的評価になっているが、No.

・中等部のお話し会に関しては、外部受験生向けの説明会のように感じた。今後改善してほしい。

・高等部の生徒会長と副生徒会長は初等部卒業生で、生徒たちが自発的に初等部と中高等部の連携を企画している。これを大きなチャンスと捉えて、教員も巻き込んで様々な交流に発展していけばよいと考える。

・保護者と教員との連携に関して、例えば、読書の習慣化などは家庭と学校の協力によって成果が大きく変わってくると思われる。保護者と教員が話し合い、様々なしかけを作れるような協力体制を構築して欲しい。

<p>6（読書や資料活用）に関しては、やや評価が低くなっている。特に、読書や資料活用については、図書館活用の取組をさらに充実させ学習意欲の喚起につながる支援を進めていきたい。</p> <p>No. 7の ICT 活用については、これまでの取組の成果が出た評価であると考え。No. 8は運動会や文化祭などへの参加意欲に関する項目である。肯定的評価が98%と、児童が主体的に行事に取り組めたことを示している。</p> <p>生活面の No. 9（学校生活のルール遵守）については98%が肯定的評価となっており、これまでの取組の成果が出た評価であると考えている。</p> <p>No. 10（いじめやなかまはずれ）については4%の児童が否定的な評価をしている。当然、100%が肯定的な評価となることをめざしていくのだが、実際にいじめ・なかまはずれが起きてしまった場合は、加害側の児童はその言動を自覚・改善する必要がある。4%については、児童が自分達の言動を見つめ直した結果だと捉えている。来年度、生徒指導面、児童理解面を充実させ肯定的評価100%をめざしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に伴う休校中にiPadなどのICT機器を活用した取組を進めていただいている。保護者としては大変ありがたいことだと思っている。 ・児童アンケートの結果分析で報告があったように、いじめやなかまはずれを行ったことを児童に自覚させ、きちんと指導した結果がアンケート結果でも確認されており、先生方の対応や児童の反応も評価できる。
---	---

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
五十嵐 昭 夫	元高槻市古曽部町自治会 会長
山 崎 勝 久	元関西大学初等部教育後援会 顧問
小 澤 守	関西大学社会安全学部 教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
長 戸 基	関西大学初等部 校長

3 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実をはかること

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と 学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣や学習規律の定着 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学級経営については、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳や電話による直接連絡、学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児</p>

<p>による安定した学級経営及び学習指導（オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄への各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長による日常的な各学級回り（授業等参観） ・ 児童の学力の向上に資する教員の研究授業（全専任1回以上）・研究会（年18回予定）の実施及び教科会議等の月1回の実施 ・ 研究発表会の開催（2月1日） ・ 全国学力・学習状況調査結果（私立・国立小学校の平均点を上回る。） 	<p>童への内面的な指導支援を行った。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、児童・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。</p> <p>学力向上については、「思考力育成を支える主体的学びを引き出す授業デザイン～質の高いズレを主体的学びにつなげる授業展開を探る～」という研究テーマを設定し実践・研究を進めた。</p> <p>ICT環境の整備とICTの活用については、児童の学びを深め広げるために、iPad、ノートパソコン、実物投影機等の機器を有効活用するとともに、iBooksやiTunesU等のデジタルデータの活用やプログラミング学習の実践を進めている。また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力を得ている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>毎日、校長が各教室をまわり児童の様子、教員の指導状況を見ているが、いずれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られる。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月1回の定例会議を開き、各教員が情報交流及び指導の充実に努めた。6月に実施したオープンスクール参加の受験対象保護者のアンケートでは、「授業に関係のあることだけで、あんなにたくさん言葉が出てくるのに驚きました。全員が参加型の授業だと感じました。問題一つにしても相談させたり、その必要性を子供たちに聞いたり、押し付けではない“一緒に考える“という印象を受けました。」</p> <p>「先生が一方向的に教えるのではなく、子どもの意見をうまく引き出している。」など、今回も児童の学びの主体性やそれを引き出す教員の指導力について高い評価をいただいている。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関するほとんどの項目で90%以上の肯定的評価をいただいた。また、今年度も管理職を除く全専任教員が研究テーマに沿った研究授業を1回ずつ（計19回）行い、研究授業毎に教科研究会または全体研究会を実施した。その際、これまで継続して指導を受けている本学総合情報学部の黒上先生をはじめ、各教科で助言者を招聘し指導を受けている。実践・研究のまとめとして2月1日に第10回の研究発表会を開催し、全学級計18本の授業、中等部においても各学年の「考える科」の授業3本を公開するとともに、授業協議会、外部指導者によるパネルディスカッション及び講演会を実施した。今回も全国から850名を超える申し込みがあるなど高い評価を受けた。また、日常の学習活動に、ゲストティーチャーとして国際交流関係者、助産師、医療メーカー等、</p>
---	--

	<p>多様な職種の方の支援を受けた。</p> <p>また、ICT 教育については、子どもたちが好奇心を持って学べるような環境と思考力を高める取組が評価され、全国の小学校で初となる ADS(Apple Distinguished School 2018-2021)の認定を受けている。そして、本年度初めての取組として、12月12日に ICT 活用公開授業を「思考力を土台とした創造性の発揮」をテーマに開催し、授業9本を公開するとともに、5本のワークショップ及び講演会を実施した。初めての試みであったが190名を超える申し込みがあり、アンケートには「全員が iPad をツールとして活用しているさまがよく分かりました。iPad の使用法を教えている授業は全くなく、使いこなして紙と鉛筆ではできないことを成し遂げていると思いました」など、本校の実践を高く評価していただいた。</p> <p>例年、文部科学省の全国学力・学習状況調査において、本校の6年生は国語・算数ともに私立・国立小学校の平均点を上回る結果を残してきた。しかし、本年度については、算数は私立・国立小学校の平均点を上回ったが、国語は私立小学校の平均(74.7)は上回ったものの、国立小学校の平均(79.5)を1.1ポイント下回る(78.4)という結果であった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度は、これまでの取組を継続しつつ、新たな研究テーマを設定して児童の学力向上に取り組んできた。今年度の取組の成果と課題を共有して、次年度も教員全体で学力向上に努めたい。また、学力状況の客観的指標である文部科学省の全国学力・学習状況調査については、結果を真摯に受け止め、基礎基本の定着に加え、児童の思考力・表現力を高めていく指導を充実させたい。</p> <p>また、児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、いじめ・不登校等の事象が生じた場合でも、学校全体で情報を共有し対応にあたりたい。</p> <p>ICT活用については、本年度初めて取り組んだ「ICT活用公開授業」の成果を踏まえ、プログラミング、ICT活用方法、情報モラルの指導等を盛り込んだ情報教育のカリキュラムを作成し、学校全体としての系統的な指導を進めていきたい。</p>
--	---

<p>イ 図書館教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本（数十冊単位）貸し出し） ・ 図書館活用のための講座を各学年1回以上実施 ・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>思考力育成の土台となる読書活動充実に向け、学年に応じた児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数集計や一覧作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、読書メソッドの活用や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも力を入れている。各学年のオープンスペースにはブックトラックを置き、読書や調べ学習の充実を図っている。また、司書による図書館活用講座の他、絵本作家による講演会も実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のために各教科等での情報収集の場としている。本年度は「はてな館」に子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することで、より子どもたちが図書室に足を運ぶ機会を増やすことを目指した。例えば、本校との交流校である韓国花津小学校からいただいた物品や「交流校締結の公式文書」などを展示した韓国ブースなどは、韓国と交流している2年生が非常に興味を持ったブースであった。オープンスペースブックトラックには一定期間資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。</p> <p>1月末までの本の貸し出し数は、全校で約 51,424 冊となった。（1年 13,951 冊、2年 13,405 冊、3年 9,815 冊、4年 4,893 冊、5年 4,476 冊、6年 3,067 冊、教員が授業で活用 1,817 冊）。2名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援も行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションだけでなく、図書の分類、図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。また、外部講師として日本を代表する絵本作家のお一人で、世代を問わず人気の高い『じごくのそうべえ』をはじめとするたくさんの絵本を出版されている田島征彦氏を招聘し、児童への講演をお願いした。読書メソッドについては、本に対する興味・関心を高めるとともに、児童の思考を促す取組としても有効であった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用</p>
--	---

	<p>力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。貸出量については、ページ数や文字数等の関係で低学年と高学年の差はあるが、日常の読書量、読書内容、また資料活用について司書と連携して指導・支援をすすめるとともに、積極的な図書館活用につながる啓発を行っていききたい。図書を扱うルールやマナーについても引き続き具体的な指導を進めていく。図書館司書による読み聞かせ、読書支援、資料活用のための講座等については、児童の学びを広げ深めるために効果的であった。また、絵本作家田島征彦氏による講演は、「『祇園祭』という絵本をつくるために3年間の取材をした」など、作家の様々な努力によって絵本ができていくということを知る機会となった。作者本人による絵本の読み聞かせもしていただき、児童の読書への興味関心を高める良い機会となったので、今後も継続していききたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流 ① 各学年（2年生以上）の国際交流取組の継続実施 ② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議や互いに作成した資料交流等を、各学年3回以上実施 ③ 英語教育との関連づけ（テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を3～10コマ設定）（大学との連携による留学生との交流を高学年で実施。） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>国際交流については、テレビ会議システムの活用や手紙や学習成果物の直接交流により2年生以上の学年で取組が定着してきた。その際、部分的に英語で質問や挨拶ができるよう英語のモジュール学習や授業の中で、学年の実態に応じた学びの場をつくっている。</p> <p>また、6年生は10月に実施しているオーストラリアへの修学旅行の中で、2日間バークデール小学校と交流し、3泊4日のホームステイも経験した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>テレビ会議については、交流相手校や関係機関と連携し、各学年（2年韓国・3年台湾・4年フィリピン・5年カンボジア・6年オーストラリア）ともに年3回以上実施できた。事前に交流テーマを決め英語も交えて直接交流することにより、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深め、コミュニケーション面で自信を持つことができた。</p> <p>6年生の修学旅行では、事前に関西大学との連携による留学生との交流を高学年で実施し、外部講師としてECC国際外語専門学校からネイティブの講師を5名招聘して自分たちの英語のプレゼンテーションがしっかりと相手に伝わるかどうかを確認する機会を持った。これらの事前の取組によって、モチベーションが高まり、学校交流でバディを組んだ相手校の児童と仲よくなったり、3日間のホームステイで児童が積極的にコミュニケーションをとろうとしたりすることができた。</p>

	<p>英語教育においては、四技能をバランス良く育てることをめざしてカリキュラムを工夫し、コミュニケーション能力の基礎を養う指導を進めることができた。1年生から4年生までは保護者向け英語発表会も実施している。また、国際交流や修学旅行実施にあたって、英語によるコミュニケーション力向上のための学習を、学年に応じ4～10コマ実施した。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>修学旅行ではオーストラリアで4日宿泊した。ホームステイは、昨年度同様に3日間実施したため、1日目はホテル泊、2日目から4日目にホームステイをして帰国というスケジュールであった。ところがホームステイ先で発熱した児童1名が帰国する当日に39℃を超える高熱を出し、修学旅行本体と一緒に帰国することができなかった。</p> <p>3日間のホームステイが英語によるコミュニケーション力向上に効果があることは明らかであるが、海外での児童の健康管理の徹底という側面から、来年度以降の修学旅行ではホームステイを2日間とし、現地に到着した日(1日目)と日本に帰国する前日(4日目)はホテル泊として修学旅行を実施したい。</p> <p>昨年度までは、海外との交流は1年単位での設定であったが、本年度の5年生は、昨年から引き続いてカンボジアのクナー小学校(Khmar elementary School)と交流を行った。結果として、2年続きで交流を行うことによって、相手校の子どもたちとより深いつながりができたという良さがあった。例年、1年単位で交流先を変更してきたが、交流先の状況・子どもたちの状況を鑑みて、場合によっては柔軟に複数年の交流を行うことも検討していきたい。</p>

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で児童を指導・支援する体制の確立(年度当初の『子どもを語る会』実施及び児童の情報交流を毎月実施) 児童対象の生活アンケートを年2回実施し、実態把握と 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>今年度も、教員による日常的な児童観察の他、生徒指導部、健康教育部の各主任と、教務主任・当該学年主任・担任からなる生徒指導連携会議を校内の生徒指導の中核として位置づけた。また、「子どもを語る会」や毎月の職員会議における各学級の状況報告により、支援の必要な子どもについて教員全体で共有するとともに、一人ひとりの状況把握のために全児童対象の生活アンケートを実施した。また、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対</p>

<p>必要に応じ学校全体での早期対応に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立（生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応） 人権教育の取組充実（全児童対象の人権教育講演会を1回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確立） 	<p>する協力を依頼している。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。</p> <p>人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>年2回の児童生活アンケートは生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導にいかすとともに、必要に応じて全教員で情報を共有した。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通することで、学校と家庭とが一体となって指導支援を行うことができた。「子どもを語る会」については、年度当初に加え年度末にも実施し、次年度への引き継ぎを行った。今年度、いじめ問題は生起していないが、不登校傾向のある児童は数名在籍していたので、担任だけが抱えることなく連携会議を招集したり、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行ったりしながら、学校全体で未然防止・早期対応に取り組んでいる。人権教育については、分野別の学年カリキュラムをもとに指導を進めるとともに、車椅子バスケットボール選手の北田千尋選手をお招きし、「ともに生きる」をテーマにした人権講演会を開催した。北田選手には、夢を叶えるために懸命な努力をされ、今では日本でも有数の車椅子バスケットプレイヤーとして活躍されるに至った体験をお話していただくとともに、実際に競技用車椅子を使ってのランやシュートも実演していただき、子どもたちに夢を持つこと、その夢を実現するために努力することの大切さを伝えていただいた。</p> <p>また、ICT部会と連携し、高学年児童を対象とした情報モラルの学習会を昨年度に引き続き実施した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っており、毎月の職員会議での報告事案はほとんどない状況であった。教員間の連携もスムーズであり多くの教員の目で児童を見て学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。</p> <p>ただ、登下校、特に下校時については、児童の行動だけでなく保護者のお迎え等に関して一般の方からご指摘を受けることもあったので、教育後援会とも連携しながら特に保護者啓発に力をいれたい。</p> <p>また、人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや</p>
--	---

	内容を全体で共有し、引き続き部会を中心に精査していきたい。
<p>イ よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催（テレビによる全校集会を年10回程度実施） ・ 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 委員会・・・隔月1回実施 クラブ活動・・・年7回実施 全校たてわり活動 ・・・年5回実施 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>各学級・学年で年度当初に年間目標を考え、主体的・協働的に学校生活を送ることができるようにしている。学校全体の大きな行事としては、運動会を5月、文化祭を11月に実施した。宿泊学習については、1年生から3年生までの関西大学高槻キャンパスの高岳館を使った宿泊訓練、4年生のスキー合宿、5年生の南阿波体験学習、6年生のオーストラリアへの修学旅行がある。集団活動として、全校たてわり活動を年5回、5・6年生による委員会活動、4年生以上によるクラブ活動を実施した。また、昨年度に引き続きテレビ放送による全校集会を10回実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>運動会については、これまでも行ってきた組み体操を継続して行った。ただし、タワーなどの危険性が指摘されているものについては3段タワーは行わないなど安全性に配慮するとともに、難易度の低い技を全体で揃えることで集団行動の美を演出した。</p> <p>文化祭についても2年・4年・6年が合唱、1年・3年・5年が劇などの表現活動を行うことで、バリエーション豊かにそして、学年による成長を見せることができた。このため、文化祭は今年度も保護者から好評であった。</p> <p>宿泊学習については、学年の発達段階に応じたプログラムにより、子どもたちが意欲的に活動に取り組む姿が見られた。</p> <p>たてわり活動については、高学年の児童の意識が高くなってきており、それぞれのグループでリーダーシップを発揮して楽しい活動にするなど、取組が定着している。また、委員会活動については、5月に発足後、第1木曜日に活動を行い、奉仕活動を行うとともに、今年度は各委員会で月目標を設定し、10回のテレビ集会で全校に向け啓発運動を行うことができた。クラブ活動については、後期に発足後、月1回以上（今年度は計7回）実施し、文化系、スポーツ系ともに、児童が自主的、意欲的に活動を進めることができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えている。</p>

	<p>1年生の宿泊学習については、「日常の学校生活が精一杯の1年生にとって、宿泊することは抵抗が大きい」という実態があった(実際に、夜になってから保護者の方に迎えにきていただいたこともあった)。日中の活動は非常に有意義なものであったので、来年度以降、1年生は「1泊2日の宿泊学習ではなく、日帰りの遠足を2日実施することで豊かな体験活動の機会を持つ」ことにしたい。実際、1年生の宿泊学習の2日目は昼前に帰校するため、実質的な活動時間が少ないことに加え、本年度までは「宿泊学習の前日は午後カット」、「宿泊学習翌日は子どもたちの体力面に配慮して10:30登校」としてため、宿泊をすることによって削減されていた授業時間(3時間)も確保できることになる。</p> <p>テレビによる全校集会については、次年度以降も実施し、生活目標等の提示により児童の学校生活全般にわたる自覚を高めるようにしていきたい。</p> <p>集団活動については、各教員が日常の学級指導を丁寧に行うことをさらに意識するとともに、今年度実施したたてわり清掃についてさらに充実を図りたい。また、クラブ・委員会活動については、それぞれのねらいをより明確にし、児童の自主的な活動の充実を図りたい。</p>
--	--

(3) 重点目標③： 管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施(年3回実施) 教育後援会(保護者)との連携及び啓発(地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施) 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い意識の向上を図った。また、学校便り(初等部だより、生徒指導だより)により、安全に関する保護者啓発を進めることに加え、教育後援会の活動として今年度も登下校見守り運動が行われた。</p> <p>管理面では一斉下校指導、地震・火災等の避難訓練、緊急時の児童引き渡し訓練、不審者侵入対応訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>今年度は、私立小学校のスクールバスを待っている児童が襲われた川崎市の通り魔事件や吹田での拳銃強奪事件等、児童の安全に直接影響する事案が複数回生起した。特に、川崎市の通り魔事件については、私立小学校の児童が襲われたということもあり、児童への安全指導、校内の安全管理、保護者と</p>

	<p>の連携等、危機管理を問われる事件であった。事件当日に全校の保護者向けに一斉メールを配信し、子どもたちの命を守るための具体的な方法について家庭で話題にさせていただくとともに、本校教員による朝の立ち番の実施に加え、必要に応じて児童の送迎を積極的にお願いすることを伝えた。迅速、適切な対応により、保護者からも学校への信頼が深まった旨の感想を多数いただいている。</p> <p>日常の安全指導・管理については、安全管理部を中心に、取組が定着した（4・8・1月：一斉下校指導、6月：引き渡し訓練、1月：避難訓練）。また、救命研修（6月）及び不審者対応訓練（9月）も行っている。児童の意識向上（特に登下校時の公共交通機関のマナー、ルールの遵守）については、一般の方からのご指摘や苦情が低学年を中心にあったが、都度、直接指導や全体への指導を行ってきた。また、教育後援会の地区委員会主導による見守り活動及び啓発活動については、保護者の活動として定着し委員以外の保護者にも広がりつつある。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度の危機管理について課題となったことを総括し、法人全体の動きも見据えながら、次年度以降の対応改善につなげたい。また、校内・登下校時の基本的なルール・マナーについて、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全体集会での指導について検討し改善を進めたい。また、教育後援会との連携を深め、登下校見守り運動の継続や保護者の意識向上等、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実を図る。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有 業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月1回の調整会議を実施） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との日常的な打ち合わせと定例の会議を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、代替・除去等が見える形で配膳して安全管理を進めている。また、年度末に保護者からの児童の状況についての書類をもとに、次年度の対応策について確認している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>日常的な打ち合わせ及び月1回の定例の会議では、よりおいしい給食をめざした献立作成はもとより、アレルギー対応等についても常に情報を共有し、その結果を当該児童の学年</p>

	<p>団に伝えている。今年度も、高槻病院の医師によるエピペン研修を実施した。また、宿泊行事においては、事前に業者と密に連絡をとりあい、個々の児童の実態に応じた食事を用意している。</p>
	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>給食、宿泊行事におけるアレルギー対応については、今後も万全を期したい。また、エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい入学試験内容・方法の確立 ・ 入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施 ・ 年4回の学校説明会、オープンスクールの実施 ・ 年50回以上の幼児教室訪問 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>受験生の保護者対象説明会・オープンスクール及び各幼児教室(塾)訪問と各教室主催の説明会での広報を継続して実施している。入学試験については、8月31日より9月14日まで親子面接、9月20日(金)午前中に、ペーパーテストと行動観察を実施した。また、合格者対象の説明会、入学前のオリエンテーションを実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>今年度も、近畿圏において倍率を維持できた学校と定員を下回る学校の差が大きいが、本校については、昨年度2.2倍と比較するとやや減少したものの2倍は確保し倍率2.1倍となった。</p> <p>学校主催の3回の説明会や6月のオープンスクールについては、3月18日(日)は159組(前年度組数比で147%)であったが、その他の説明会・オープンスクールは前年度を下回った。体験授業の参加数については定員一杯のため、いずれも昨年度とほぼ同数であった。</p> <p>幼児教室については、本年度は校長が替わったこともあり、昨年度までは校長・教頭・入試広報主任が分担していた主な幼児教室訪問を、すべて校長が訪問し、広報用のチラシやポスターを配布した。3月から8月にかけては、幼児教室主催の学校・入試説明会、11月から2月にかけては入試報告会において、校長が説明を行い、今年度も、年度当初の教室訪問と合わせ訪問頻度目標を達成している。</p> <p>また、今回、ペーパーテストについて検討を加え、しっかり聞いて順を追って丁寧に考えると解ける問題を増やしたことで、受験生がこれまでよりじっくりと取り組む姿が見られた。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、今年度も他の私学にはない本校の思考力育成の取組には魅力を感じるという感想が多くあった。関西の入試状況は厳しいが、出願倍率2倍以上の確保を継続するため引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動のさらなる充実と効果的な広報活動について検討する。</p> <p>また、今年度実施したペーパーテストの傾向については次年度以降も継続したい。</p>
<p>エ 中等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職連携（週1回の初中定例会議、月1回の管理職会議の実施） 教育後援会との密な連携（管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月1回の実行委員会実施） 保護者対象の説明会の充実（5、6年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施） 教育活動の様々な分野における大学との連携（高学年における留学生との交流、4年生社会・道徳の小大連携） 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>初等部と中等部の教頭、また、教頭と教務主任による週1回の初中定例会議の実施により連携行事や調整事項について協議するとともに、年2回初中全体会議を実施した。</p> <p>年度当初計画をしていた「月1回の管理職会議の実施」については、本年度から新設された役職である「初等部・中等部・高等部シニアアドバイザー」と毎日ミーティングを行うことで、「月1回の管理職会議よりも、より即時性があり密度の濃い情報交換が可能である」と判断したため、管理職会議の実施を機械的に月1回とするのではなく、「必要に応じて実施する」ことに変更した。</p> <p>保護者との連携では、担任はもとより教科の担当教員が必要に応じて保護者に連絡をとるなど、家庭と密に連絡を取り合っている。中等部進学に向けての情報提供の場として5・6年生対象の内部進学説明会と、今年度も夏休み明けに、全保護者を対象とした中高等部の教育内容についてのお話し会を実施した。また、教育後援会との連携では、月1回程度の実行委員会を開催し、学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、後援会独自の行事等について協議を行っている。</p> <p>関西大学からは、研究や授業への指導・協力、留学生の紹介、国際交流支援等を受けている。また、4年生のキャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取組も実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <p>初中連携については、初中定例会議の実施が行事だけでなく、体育等の授業時間・場所の調整による授業の円滑実施につながっている。管理職会議については、実際は年間で4回だったが、「初等部・中等部・高等部シニアアドバイザー」との日々のミーティングを行ってきたため、「月1回の管理職会議」よ</p>

	<p>りも多くの情報交換を行うことができ、スムーズな連携を行うことができた。また、今回3回目となる、全保護者を対象としたお話し会では、中等部の校長、教頭が具体的なカリキュラム、学校生活等について説明し有意義な情報提供の機会となったが、中等部・高等部のめざす具体的な学校像、中等部・高等部の大切にしている探究学習や思考力育成の具体的な成果を十分に保護者に伝えられなかったため、アンケートに厳しい意見の記述が散見された。</p> <p>保護者との連携については、学校との信頼関係を築くことができているが、携帯の使用、車使用等、保護者自身のマナー等については課題が見られる。</p> <p>大学との連携については、4年生の歴史学習や研究への指導助言、また、国際理解教育における学部生、大学院生等の協力等については継続できているが、その他の連携については進んでいない面もある。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>初中連携について、管理職間の協議で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。また、教員の初中全体会議を充実させるために、内容・方法についてさらに改善を加えたい。</p> <p>全保護者を対象としたお話し会では、中等部・高等部のめざす具体的な学校像、中等部・高等部の大切にしている探究学習や思考力育成の具体的な成果を十分に保護者に伝えられるような方法を検討していきたい。実現可能かどうかは、検討する必要はあるが、中等部・高等部の生徒が自分たちの学んだことをプレゼンテーションするなどの工夫をしていきたい。</p> <p>保護者との連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により継続して進めていきたい。</p> <p>また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。</p>
--	--

4 校長の意見書

関西大学 初等部
校長 長戸 基

保護者・児童によるアンケート結果、教員による学校・教育活動評価の結果に加え、外部評価委員、学校関係者評価委員の皆様からいただくご意見は初等部の学校運営・教育活動の改善に向け貴重なものであると考えている。

アンケート全体を通して、保護者・児童の評価は今回も肯定的評価が90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい結果であると考えている。特に、保護者アンケートの「保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか」、児童アンケートの「初等部に入学して良かったですか」の設問については、毎年、最も注目しているところである。本年度、「関西大学に子どもを入学させて良かった」と感じている保護者が97%、「関西大学初等部に入学して良かった」と感じている子どもが100%という非常に高い割合となっていることは、学校として大変嬉しい結果である。本校教育に深い理解とご協力をいただいた保護者の皆様に感謝したい。

学習指導については、「公立や他私学に負けない教育」、「確かな学力をつけるための工夫された授業」、「思考力重視の指導」ができていると感じている保護者が95%以上となっている。また、学校関係者評価委員の皆様にも本校の思考力育成の取組は高く評価いただいている。反面、教員アンケートによると、「十分な指導ができていない」と批判的に捉えている教員もいることがわかる。この捉え方は、現状に満足せず、真摯に教育に向き合う本校教職員の高い意識によるものだと感じている。今後も、より質の高い学習指導を進めていけるよう、研鑽を積んでいきたい。

良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等については、学校関係者評価委員会の皆様からも「いじめやなかまはずれを行ったことを児童に自覚させ、きちんと指導した結果がアンケート結果でも確認されており、先生方の対応や児童の反応も評価できる」というご意見をいただいている。今後も継続的な取組を進めていきたい。

中高等部との連携・接続については、アンケート結果に現れているとおり、大きな課題だと捉えている。外部評価委員会及び学校関係者評価委員会の皆様から具体的な提案もいただいたので、来年度の取組に検討を加え、改善していきたい。

5 アンケート結果

- 2019年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教員／保護者用）
- 2019年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）
- 2019年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（児童用）
- 2019年度 児童アンケート集計

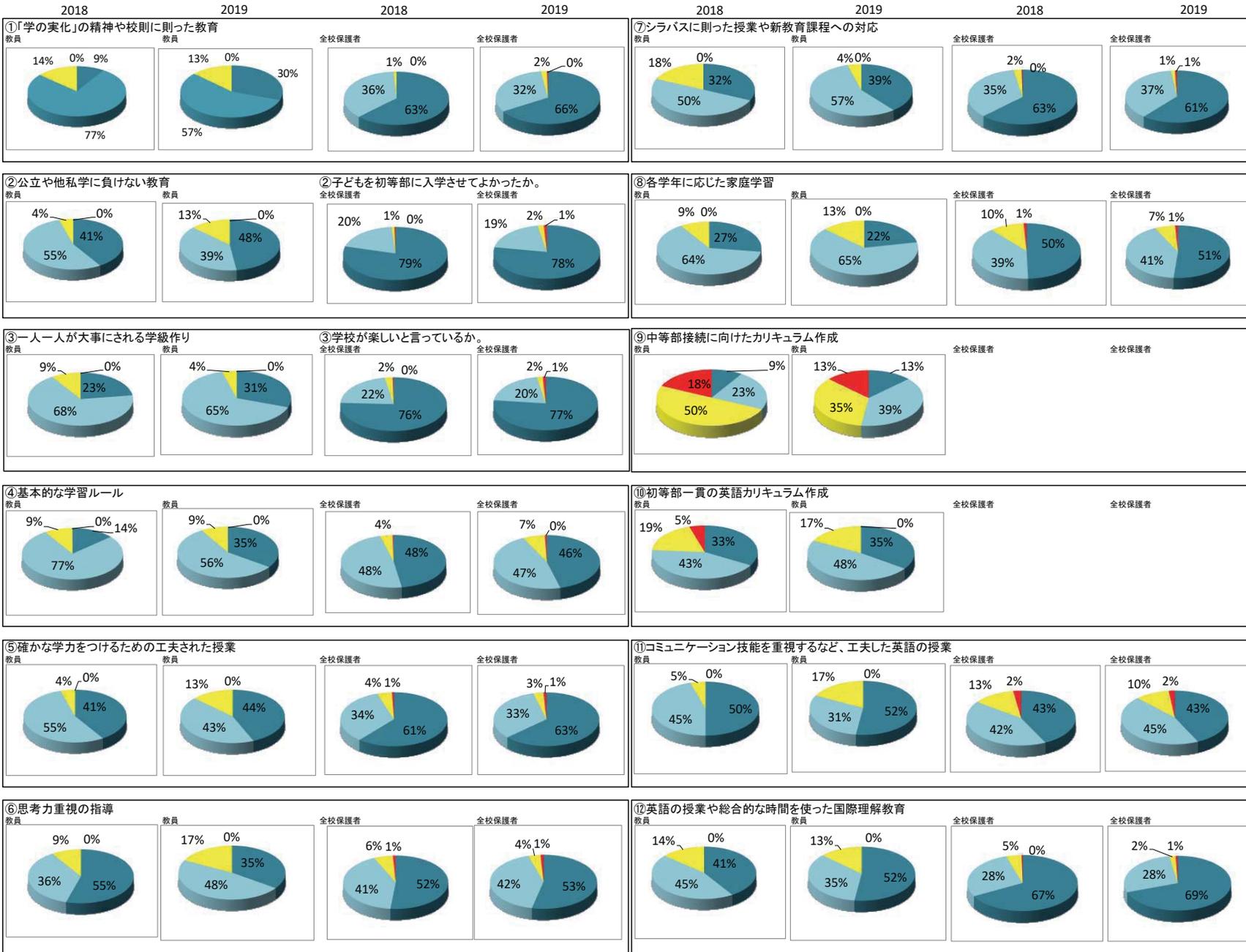
以上

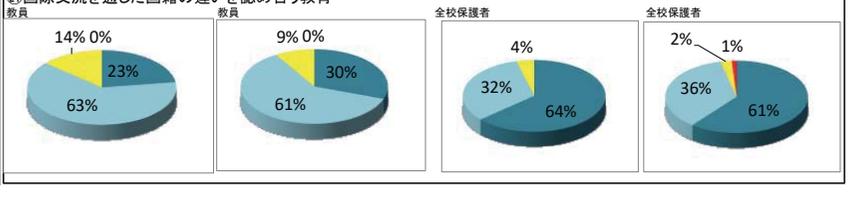
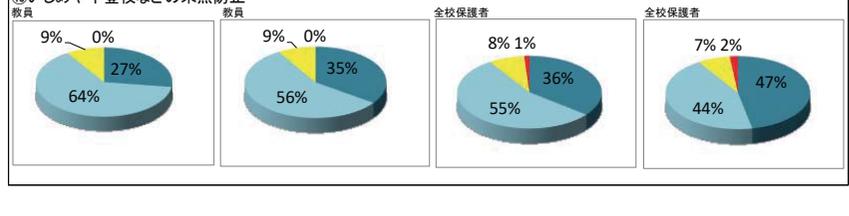
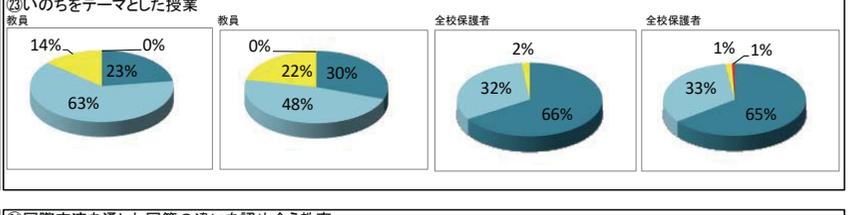
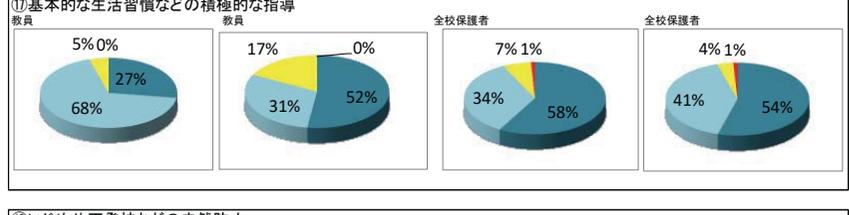
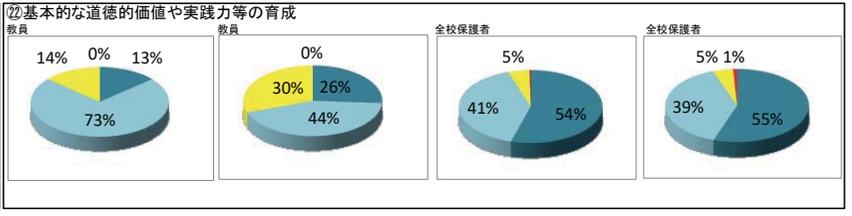
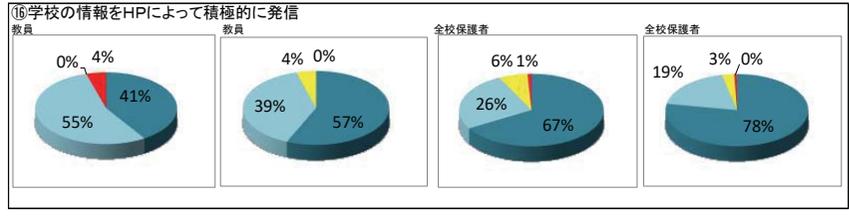
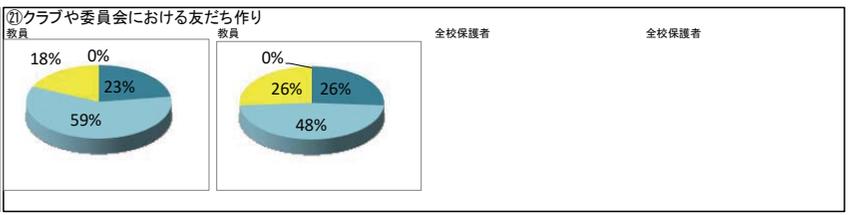
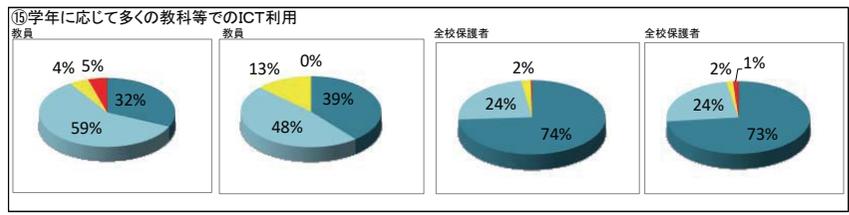
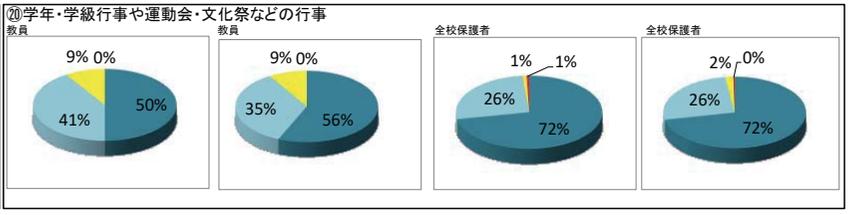
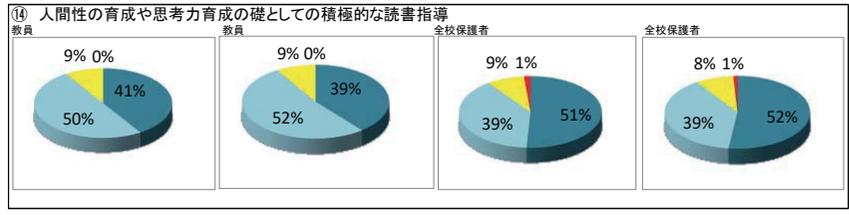
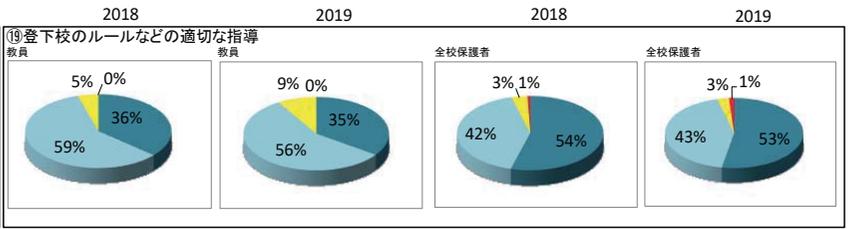
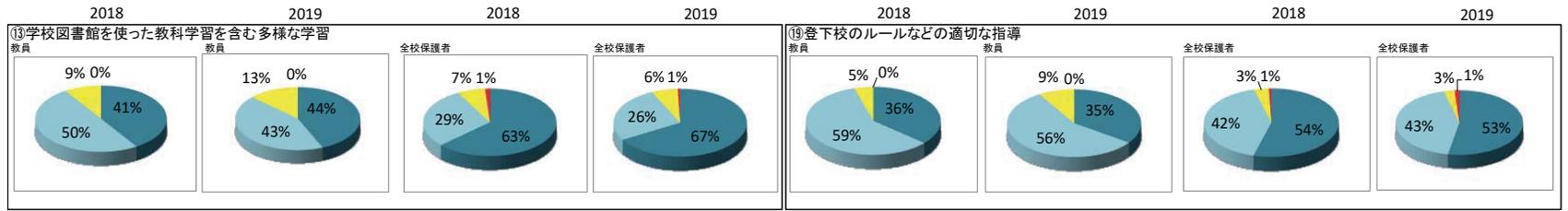
2019年度 学校評価アンケート（質問項目）

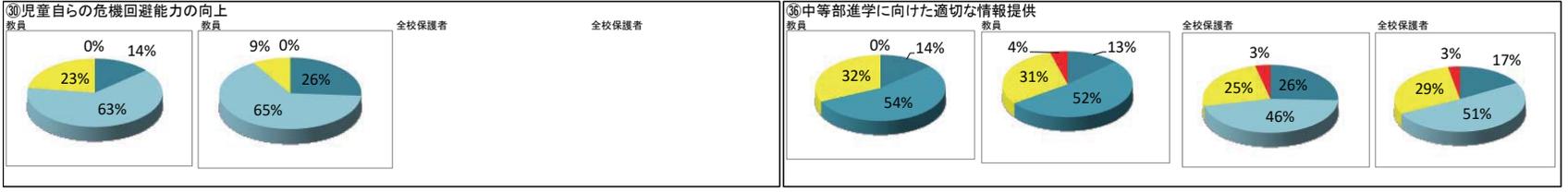
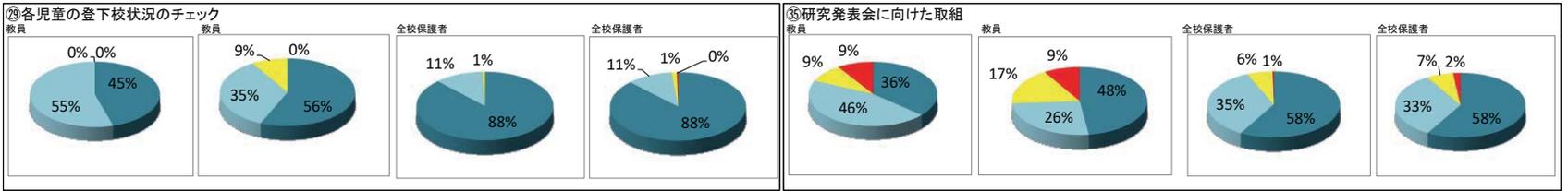
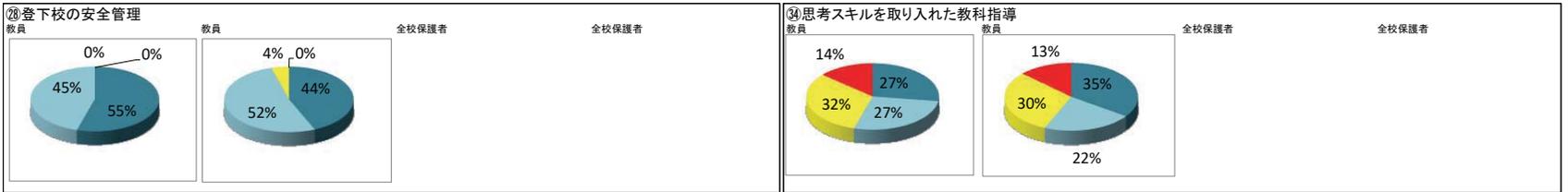
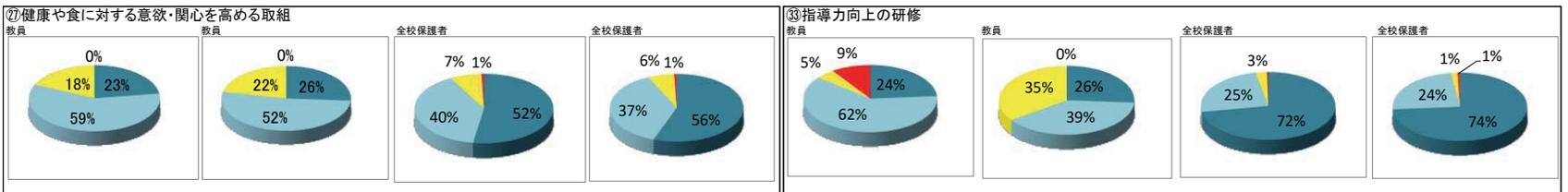
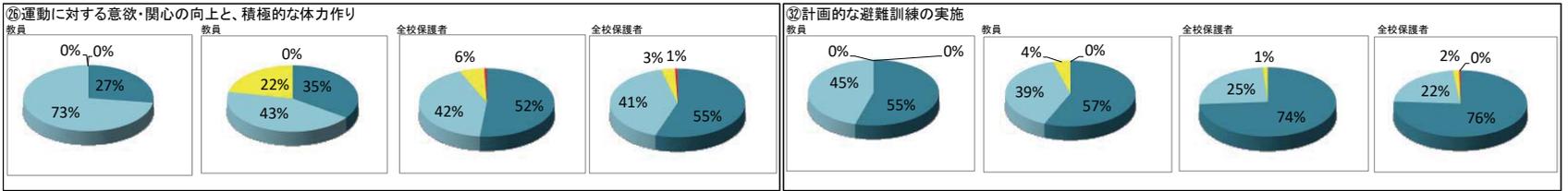
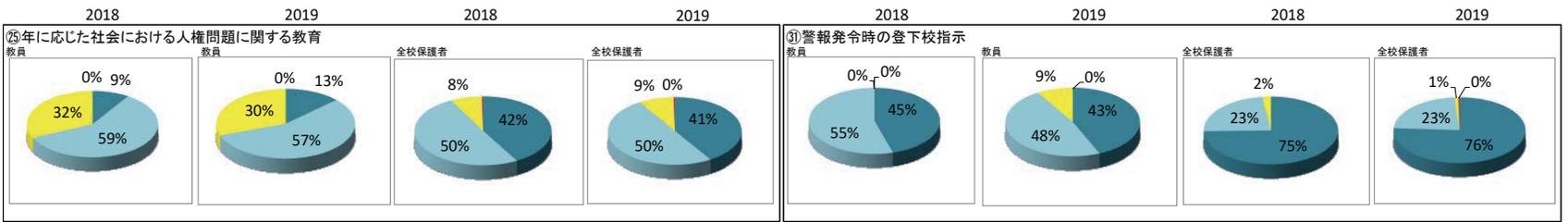
教員用	保護者用
<p>◎私学の独自性 (教育方針)</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 英語教育</p> <p>(4) 国際理解</p> <p>(5) 図書館</p> <p>(6) ICT</p> <p>(7) 生徒指導</p> <p>(8) 特別活動</p> <p>(9) 道徳教育</p> <p>(10) 人権教育</p> <p>(11) 健康教育</p> <p>(12) 安全管理</p> <p>(13) 研修</p> <p>(14) 進路指導</p> <p>(15) 入試広報 ・連携</p>	<p>◎私学の独自性 (教育方針)</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 英語教育</p> <p>(4) 国際理解</p> <p>(5) 図書館</p> <p>(6) ICT</p> <p>(7) 生徒指導</p> <p>(8) 特別活動</p> <p>(9) 道徳教育</p> <p>(10) 人権教育</p> <p>(11) 健康教育</p> <p>(12) 安全管理</p> <p>(13) 研修</p> <p>(14) 進路指導</p> <p>(15) 入試広報 ・連携</p>
<p>①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。</p> <p>②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。</p> <p>③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。</p> <p>④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。</p> <p>⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。</p> <p>⑥思考力重視の指導が積極的に行われている。</p> <p>⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。</p> <p>⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。(家庭への啓発、指導等)</p> <p>⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。</p> <p>⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。</p> <p>⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。</p> <p>⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。</p> <p>⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。</p> <p>⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。</p> <p>⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。</p> <p>⑯学校の情報がHPや学年・学級通信・ブログ等によって積極的に発信されている。</p> <p>⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。</p> <p>⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。</p> <p>⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。</p> <p>⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。</p> <p>㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だち作りを図っている。</p> <p>㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に行っている。</p> <p>㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)</p> <p>㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。</p> <p>㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。</p> <p>㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。</p> <p>㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。</p> <p>㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができている。</p> <p>㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。</p> <p>㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。</p> <p>㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。</p> <p>㉜各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。</p> <p>㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。</p> <p>㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。</p> <p>㉟研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。</p> <p>㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。</p> <p>㊲計画的な入試・広報活動が行われている。</p> <p>㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。</p> <p>㊴教育後援会と適切な連携が行われている。</p> <p>㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。</p>	<p>①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。</p> <p>②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われましたか。</p> <p>③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。</p> <p>④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われましたか。</p> <p>⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われましたか。</p> <p>⑥どの学年でも思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われましたか。</p> <p>⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われましたか。</p> <p>⑧学年に応じた宿題や自主学習等の家庭学習を積極的に進める指導を行っていると思われましたか。</p> <p>⑨コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思われましたか。</p> <p>⑩テレビ交流など、外国と積極的に国際交流を進めていると思われましたか。(2年～6年保護者のみ)</p> <p>⑪図書館では読書だけでなく、ミューズ学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。</p> <p>⑫読書の時間などを設けるなど、積極的な読書指導が行われていると思われましたか。</p> <p>⑬授業等で電子黒板やコンピュータ等の教育機器が効果的に活用されていると思われましたか。</p> <p>⑭HPや学年・学級通信・ブログ等から初等部の様子を知ることができていると思われましたか。</p> <p>⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が積極的になされていると思われましたか。</p> <p>⑯いじめや不登校が起らないように取り組んでいると思われましたか。</p> <p>⑰交通ルールやマナーの指導、集団下校指導(年3回)等、適切な登下校指導が行われていると思われましたか。</p> <p>⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が積極的に行われていると思われましたか。</p> <p>⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を積極的に行っていると思われましたか。</p> <p>⑳学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に積極的に取り組んでいると思われましたか。</p> <p>㉑国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を積極的に行っていると思われましたか。(2年～6年保護者のみ)</p> <p>㉒学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われましたか。</p> <p>㉓体育の授業や体育的行事を通して積極的な体力作りを行っていると思われましたか。</p> <p>㉔給食指導など、積極的に食育に取り組んでいると思われましたか。</p> <p>㉕ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実に行われていると思われましたか。</p> <p>㉖「警報発令時等の登下校について」の内容についてご存知ですか。</p> <p>㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を計画的に実施していると思われましたか。</p> <p>㉘初等部の教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われましたか。</p> <p>㉙研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われましたか。</p> <p>㉚中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われましたか。(5,6年生保護者のみ)</p> <p>㉛初等部は教育後援会と緊密な連携がとれていると思われましたか。</p> <p>㉜学校・学級からの連絡や相談が必要に応じて適切に行われていると思われましたか。</p>

2019年度 学校評価アンケート 集計

よくあてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない まったくあてはまらない







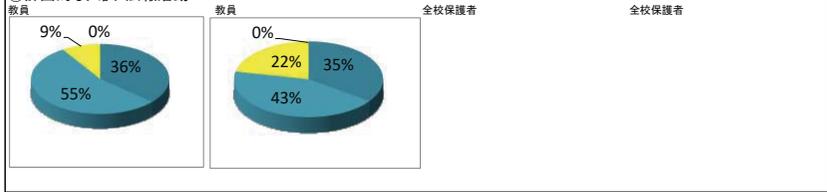
2018

2019

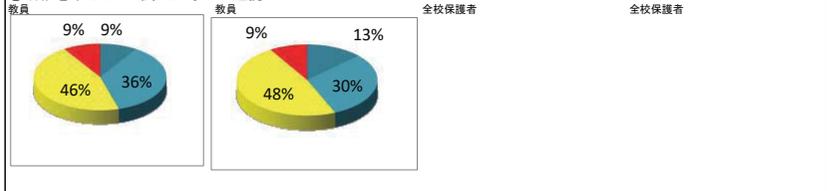
2018

2019

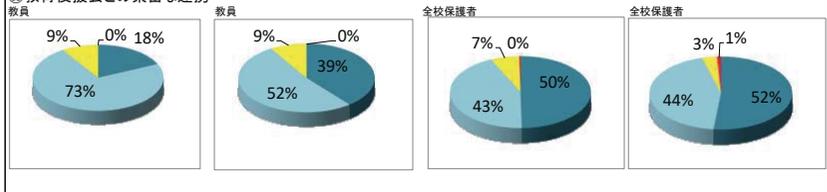
⑳ 計画的な入試・広報活動



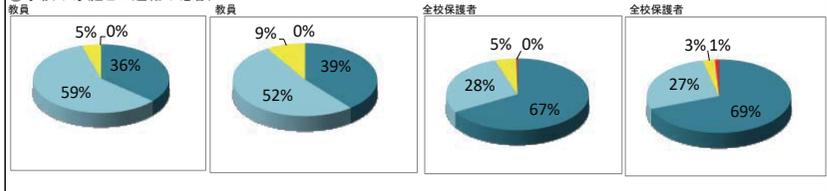
㉑ 研修を中心とした関西大学との連携



㉒ 教育後援会との緊密な連携



㉓ 学校や家庭との連絡や懇談



学校生活をふりかえって

名前 ()

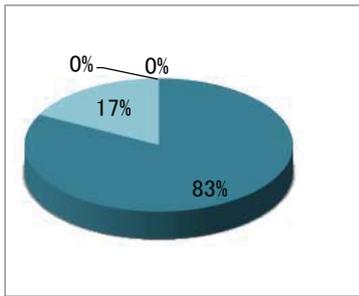
入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえましょう。

当てはまる番号に○をつけましょう。

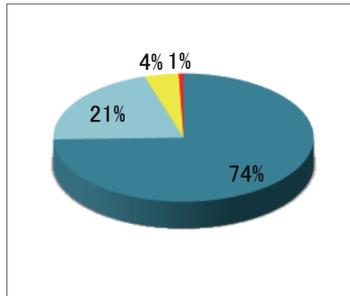
	児童用質問	1よく当てはまる	2やや当てはまる	3やや当てはまらない	4全く当てはまらない
①	関西大学初等部に入学してよかったですか。	1	2	3	4
②	学校は楽しいですか。	1	2	3	4
③	勉強をがんばっていますか。	1	2	3	4
④	思考力がついたと思いますか。	1	2	3	4
⑤	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。	1	2	3	4
⑥	いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。	1	2	3	4
⑦	iPad やパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。	1	2	3	4
⑧	運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。	1	2	3	4
⑨	ルールを守って学校生活を送ることができましたか。	1	2	3	4
⑩	いじめやなかまはずれなどをしていませんか。	1	2	3	4

2019年度(児童アンケート)

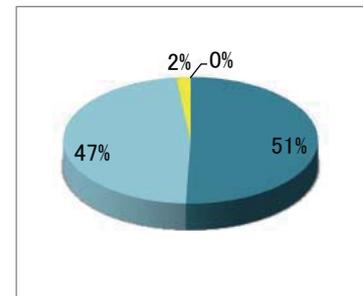
①関西大学初等部に入學してよかったと思ひますか。



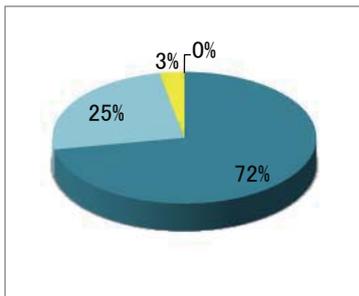
⑤先生方は工夫した授業をしていられると思ひますか。



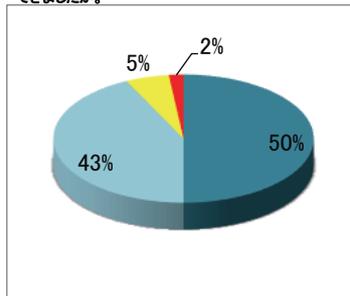
⑨ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



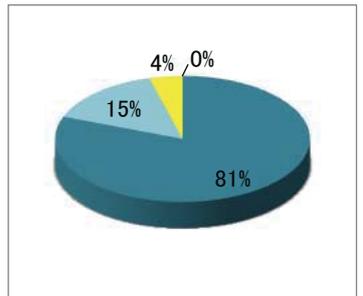
②学校は楽しいですか。



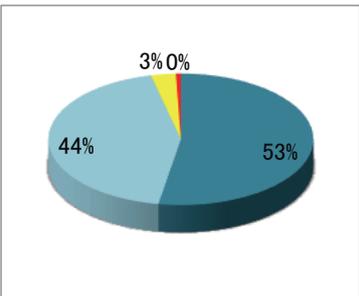
⑥いろいろな本を讀んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



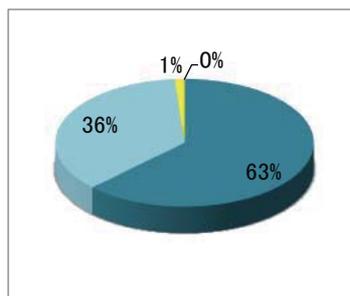
⑩いじめやなぐまはずれなどをしていませんか。



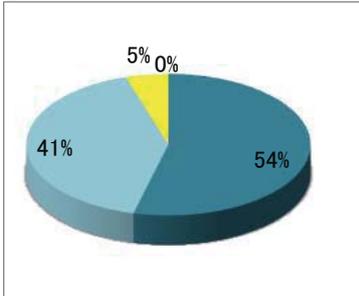
③勉強をがんばっていますか。



⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④思考力がついたらと思ひますか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

